

滋賀短期大学の3つのポリシー

本学教学の基本方針		
<p>本学は、心技一如の建学の精神のもとに築きあげてきた実学教育の伝統を踏まえ、デジタル化が進む社会にも適切に対応する専門的能力と汎用的能力をもった人材を育成します。</p>		
学修成果		
<p>本学の卒業生は、幅広い教養をもとに専門知識・技能・情報リテラシーにもとづく問題提起・解決能力、表現力、コミュニケーション力、を獲得し、深い人間性と高い倫理観をもって広く地域及び社会に貢献できる能力を有します。</p>		
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>卒業時点において、以下の観点から、各学科・コースの目的に沿った専門知識と、それを有効に活かすための技能、さらにそれらの基礎になる人間力をもっていることを求めます。</p> <p>【専門知識と教養】 各学科・コースが掲げる専門知識だけではなく、それを支える広い視野をもつために、幅広い教養と情報リテラシーが身についていること。</p> <p>【専門性を活かす技能】 専門知識を理解したうえで、それを使いこなせる技能と、それを応用する実践能力が身についていること。</p> <p>【問題提起・解決能力】 知識と技能を習得したうえで、専門分野にかかわる課題の所在やその分析の方法を総合的に考え、適切に判断して問題の解決にみちびく能力が身についていること。</p> <p>【表現力・コミュニケーション力】 問題提起から分析を経て解決に至る過程と、その成果を効果的にアピールするための表現能力が身についていること。また豊かな人間性をもって人と人との円滑なコミュニケーションを実現する力が身についていること。</p>	<p>本学では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、2学科に共通のカリキュラム編成の方針を掲げると同時に、それぞれの学科・コースが、特色をもった教育カリキュラムを展開しています。また丁寧でわかりやすい授業をおこない、学生の理解度を高める「学修者本位の教育」の実現を目指しています。</p> <p>【カリキュラムの編成】 専門科目と一般教養科目をバランスよく配置し、2年間のすべての授業が有機的に連携して機能するよう、系統的なカリキュラムを編成しています。</p> <p>【アクティブラーニングの充実】 アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生と教員、あるいは学生同士が向き合う授業を行っています。</p> <p>【情報リテラシー、データサイエンス（リテラシーレベル）の教育の推進】 全学でデジタル社会に対応できる教育を推進します。ノートパソコンを必携し、デジタル機器やオンラインを活用した教育を行うとともに、2学科すべてで、ITリテラシーとデータサイエンスの基礎を修得するようになります。</p> <p>【教育の質保証】 専門科目はできるだけ少人数教育ができるよう、同一科目でも複数クラスを置くなどの措置を講じています。また教育の質を高めるために、各教員が授業改善し、個別の学生の学力や志望に応じた支援プログラムを制度的に確立しています。授業改善のためには学生の評価も積極的に導入し、その結果をフィードバックし改善につなげます。</p> <p>【実習科目の充実】 実践に強い資質を身につけるために、実習科目を重視したカリキュラムを編成しています。資格・免許にかかわる学外実習科目については、十分な事前・事後指導を行い、実効性の高い実習ができるようにしています。</p> <p>【キャリア教育の充実】 キャリア教育についても、独自の科目を配置し、入学から就職まで、社会人として基本的な資質を身につける教育を行います。インターンシップもキャリア教育の一環として、積極的に推奨及びサポートしています。</p>	<p>本学は、選択された学科・コースをなぜ志望したか、何を学びたいか、将来どのような分野で活躍したいかが明確で、学ぶ意欲を強くもつ人を求めます。学力の三要素の観点から、次のような資質・能力を求めます。</p> <p>【知識・技能】 高等学校までの教育課程における基礎的な学力を身につけていること、とくに国語において基本的な読み力と書く力をもっていること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 自分で論理的に考えることができ、集団において自分の意見を表現し、課題について議論できるコミュニケーション力をもっていること。</p> <p>【主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学修する態度】 与えられた学修に加えて、自分から学ぼうとする意欲をもって学修し、その成果を、将来社会人として活かしていこうという意志をもっていること。</p> <p>このアドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れるため、入学者選抜において、高等学校及び本人からの提出書類、面接、筆記試験などを複合的に活用し、学力の三要素を多面的・総合的に評価します。学力の三要素（求める学生像）と入学者選抜における「評価方法」の関係は別表に示すとおりです。</p>

デジタルライフビジネス学科

デジタルライフビジネス学科の学修成果		
<p>本学科の卒業生は、幅広い教養をもとに生活ビジネス学に関する専門知識・技能・情報リテラシー及びデジタルマインドにもとづく問題提起・解決能力、表現力、コミュニケーション力を獲得し、健康で豊かな生活を実現し、地域及び社会に貢献できる能力を有します。</p>		
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>デジタルライフビジネス学科を卒業するために、次のような資質や能力をもつことを求めます。</p> <p>【専門知識と教養】 豊かな職業人生と生活を実現するために必要な教養と、生活ビジネス学に関する専門知識を備え、生活全般について広い視野から考えられる能力及び学科共通科目と各コースの専門科目を修得することによって得られる柔軟な思考で社会を理解する能力</p> <p>【専門性を活かす技能】 Society5.0時代に必要とされる情報技術を理解し、それを生活分野に応用できる専門的・実践的スキルを修得し、生活を向上させるための積極的な提案ができる能力</p> <p>【問題提起・解決能力】 地域やビジネスでの課題を生活ビジネス学の観点から捉え、それらを科学的・実践的に探究し、独創的な発想で解決する能力</p> <p>【表現力・コミュニケーション力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門知識と実践的スキルを活かして、自ら考えたことを適切な方法で相手に伝えることができる能力 ●各分野の専門家として地域社会において有効な役割を果たすことができるコミュニケーション能力 	<p>デジタルライフビジネス学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを編成しています。</p> <p>【学科全体の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活ビジネス学に関する基礎的知識を身につけ、生活と仕事の両方が充実した生き方を選択できる能力を身につけるための科目を配置しています。 ●食品・調理・栄養・製菓に関する専門知識を身につけるための科目を配置しています。 ●医療・医療事務・介護・福祉に関する専門知識を身につけるための科目を配置しています。 ●ビジネス・会計・IT・デジタルに関する専門知識を身につけるための科目を配置しています。 ●身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につけるための科目を配置しています。 <p>【各コースの特徴】</p> <p>食健康コースでは、卒業と同時に栄養士免許を取得できます。地域との連携が充実しており、栄養士としての実践力を身につけるための科目を配置しています。</p> <p>製菓マイスターコースでは、在学中に製菓衛生師免許を取得できます。菓子やパンに加えて、食品一般の製造現場において活躍できる実践力を身につけるための科目を配置しています。</p> <p>総合医療事務コースでは、医療秘書・医療事務に必要な知識を身につけ、実務能力を養い、実践力を強化するための科目を配置しています。併せて、患者やその家族を思いやる心を養う科目を配置しています。</p> <p>デジタルビジネスコースでは、ビジネスの基礎、デジタルでの表現や発信、ホスピタリティマインドなどを学び、インターンシップやボランティア活動を通してビジネス現場や地域社会で即戦力となる実践力を身につけるための科目を配置しています。</p>	<p>デジタルライフビジネス学科では、次のような資質や能力をもつ入学生を求めています。</p> <p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幅広い分野に興味を持ち探究心をもっている人 ●健康で豊かな生活を目指して、日々、自分らしく工夫する喜びや楽しみをもてる人 ●地域社会で積極的に活動し、人々の役に立ちたいという意欲をもっている人 ●食健康コースでは、栄養士免許を取得し、食を通じて健康づくりに貢献したい人 ●製菓マイスターコースでは、お菓子やパン作りを将来の仕事として考えている人 ●総合医療事務コースでは、医療事務・医療秘書、医療情報分野に関心を持ち、それらの分野で将来仕事をしたいと考えている人 ●デジタルビジネスコースでは、ビジネス実務やデジタルでの表現等に関心を持ち、それらの知識や技能を身につけて、地域課題の解決やビジネスに役立たいと考えている人

幼児教育保育学科

幼児教育保育学科の学修成果		
本学科の卒業生は、幅広い教養のもとに幼児教育保育学に関する専門知識・技能・情報リテラシーにもとづく問題提起・解決能力、表現力、コミュニケーション力を獲得し、幼児教育・保育分野で活躍できる能力を有します。		
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>幼児教育保育学科を卒業するためには、次のような知識や能力、資質を身につけていることを求めます。</p> <p>【専門知識と教養】 子どもの育ちを支えるために必要な教養と、子どもの心身の発育と発達についての専門知識を備え、現代社会における様々な問題に向き合いながら、子ども一人ひとりに対してどのような保育、教育を行うことが望ましいかについて理解する能力</p> <p>【専門性を活かす技能】 保育、教育、福祉の現場を理解し、そこで必要とされる技能を修得し実践する能力</p> <p>【問題提起・解決能力】 子ども一人ひとりに対し、置かれている環境や発達過程、心の動きに応じた課題を捉え、具体的な援助が行える能力。また、保護者を理解し、相談援助ができる能力</p> <p>【表現力・コミュニケーション力】 保育、教育の適切な記録を残し、伝達することのできる表現力と、子ども、そして保護者との信頼関係を築き、適切な指導、相談援助ができるコミュニケーション力</p>	<p>幼児教育保育学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを編成しています。</p> <p>【学科全体の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乳幼児期から青年期にあたる子どもたちの理解に必要な、基礎的な知識を理解するための科目を配置しています。 ●幼児教育や保育に関する知識をさらに深く理解するために、必要な専門科目を体系的に配置しています。 ●幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得し、現場に必要な実践的スキルを修得するための、演習、実習科目を配置しています。 <p>【各コースの特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2年生配当科目として、教員の専門性を活かした内容で展開されるコースを設け、専門演習を配置しています。自分の興味関心にもとづいて選択できるようにしています。 ●子どもの表現コース 保育に必要な「造形」「音楽」「運動」について詳しく学び、運動と表現系の保育について深く学ぶことで、幅広い保育実践力を身につけることを目的としています。 ●子ども理解コース 保育の基本である「子ども理解」を深めるために、子どもの発達や心理、個に応じたかかわりなどについて深く学ぶことを目的としています。 	<p>幼児教育保育学科では、次のような資質や能力を持っている入学生を求めています。</p> <p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもや子どもを取り巻く伝統や遊び、文化について、興味があり理解したいと考えている人 ●子どもの育ちを支える保育や教育、福祉に、興味があり理解したいと考えている人 ●保育や教育、子どもの福祉に関わる仕事に就くことで地域に貢献したいと考えている人 ●幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得したいと考えている人 ●様々な背景を持つ人との関わりの中で、温かい心で他者を理解することに努めながら、冷静に自分の思いや考えを表現し、円滑なコミュニケーションを図る努力を怠らない人